

## 特別第2分科会 今日の課題 文部科学省協力

会 場 石川県立音楽堂コンサートホール

日 程 13:00 ~ 受付  
13:30 ~ 13:45 開会行事  
13:55 ~ 14:45 基調講演  
14:55 ~ 16:35 パネルディスカッション  
被災地での実践を交えながら  
16:35 ~ 16:45 閉会行事  
16:45 終了



百万石祭り ©金沢市

## 研究課題

# 学校教育における防災の学び

～ 令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から得られた教訓をどう生かしていくか ～

### 現状と課題

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震、また同じ年に発生した豪雨災害は、本県で生活する者のみならず、多くの国民に改めて日本が自然災害に対してどう向き合わなくてはならないか、またその備えはどうあるべきかを突き付けています。大人だけでなく、子供も当事者として自発的・能動的な姿勢が求められています。学校が避難所・避難場所であることも多く、地域住民とともに子供も防災についての学びの充実を図らなければなりません。

その学びをどう構築していくか、能登で発生した災害を中心に、これまでの事例から協議を深め、行政・学校・地域の結びつきについか考えてみましょう。

### 討議の視点

- ① 学校教育の場で進められている防災教育の現状
- ② 能登半島地震で得られた教訓とは
- ③ 行政・学校・地域の連携と育てていきたい子供の姿

### 提言者

- |            |         |   |
|------------|---------|---|
| ○ 基調提案者    | 木下 史子 氏 | 文部科学省総合教育政策局<br>男女共同参画共生社会学習・安全課<br>安全教育調査官     |
| ○ コーディネーター | 猿渡 智衛 氏 | 文部科学省CSマイスター                                    |
| ○ パネリスト    | 木下 史子 氏 | 基調講演者   |
|            | 国崎 信江 氏 | 内閣府防災スペシャリスト養成企画検討委員会<br>戦略的コーディネーター 危機管理アドバイザー |
|            | 大谷敬一郎 氏 | 兵庫県PTA連合会 会計理事                                  |

基調講演者 パネリスト



## 木下 史子 氏

経 歴 :

文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官

岡山県公立小学校教諭勤務 岡山県教育庁で学校安全、学校文化、社会教育を担当

岡山県庁で県警察と協働で「子供の安全対策」を推進。

2023年4月から現職。

基調講演（提案）の趣旨 :

我が国は、地震、津波、豪雨などによる自然災害の発生が多く、いつでもどこで暮らしていても自然災害に遭う可能性があります。安全教育においては、児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成することや、東日本大震災の教訓も踏まえ、児童生徒等が危険を予測し、回避する能力を育成することが重要です。

文部科学省では、学習指導要領に基づいて、各学校における安全教育が保健体育をはじめ関連する教科等で体系的に実施され、その指導の充実が図られるよう、各学校が学校安全計画に安全教育を取り扱う時間を適切に位置付け、年間の指導時間の確保に取り組むことを推進しています。

防災教育は単に生命を守る技術の教育として狭く捉えていくのではなく、どのような児童生徒等の資質・能力を育みたいのかという視点から「防災を通じた教育」と広く捉えることも必要となっています。すなわち、防災教育には、災害時に自分と周囲の人の命を守ることができるようになるという効果とともに、児童生徒等の主体性や社会性、郷土愛や地域を担う意識を育む効果や、地域と学校が連携して防災教育に取り組むことを通じて大人が心を動かされ、地域の防災力を高める効果も期待されています。自然災害に関する教育を行う際には、単に災害リスクばかりを強調するのではなく自然がもたらす恩恵などについて触れることにより、児童生徒等が自身の暮らす地域に対する理解を深めることができるようにすることも大切であると考えています。

基調講演（提案）の続き：

学習指導要領において「社会に開かれた教育課程」の実現を図ることとされる中、防災教育についても、地域の防災リーダーなどの資格者やボランティアなどの人材、公民館における防災講座なども教育資源として活用することが重要となっています。そもそも自然災害は学校の中で起きるものでなく、学校が立地している地域で起きるものと考えれば学校で学んだ知識や技術を地域で生かす、地域で学んだ経験や課題をさらに学校で生かすという「学びの往還」が大切であると考えています。地域の大人が相互に協働して地域の安全に尽力している姿を見て、自分はどう地域と関わるのかを考える機会を設けたり、普段から児童生徒等も地域住民の一人として活躍できる場を大人が意識して設けたりすることにより、安全は人から与えられるものではなく、地域住民として自ら安全な社会を築いていくこうとうする力が育まれるのではないかと思います。当日は、文部科学省における学校での防災教育を中心に紹介します。

## コーディネーター



### 猿渡 智衛 氏

横浜市での10年間の小学校勤務 文部科学省生涯学習政策局社会教育課に出向し、被災三県と熊本県における復興教育の推進に従事。原発事故被災地の福島県楢葉町に移住し、指導主事兼 地域学校協働センター長として、被災地の地域コミュニティ創生を4年間推進してきた。文部科学省総合教育政策局のCSマイスターとして、主に福島県と石川県、長野県を担当し、1月に発災した能登半島地震からの教育活動を通じた地域コミュニティの復興も担当する。

現代に求められる地域とともにある学校、そして学校を核とした地域づくりを、多様な人々が協働して推進していくための合言葉は「子どもたち（未来）のために」です。だからこそ子どもたちに最も近いPTAの皆様は学校・地域づくりの核となる存在です。復興・再生に際しても、子どもたちの存在が被災された方の励みになることが多くの被災地で聞かれています。子どもを核とした被災からの復興・創生、そして災害に強いまちづくり。全国の事例を基に、PTAの皆様の明日からの各地区での活動の一助となるよう、実り多く、熱いディスカッションをご期待ください。

## パネリスト



### 国崎 信江 氏

横浜生まれ。  
2008年株式会社危機管理教育研究所設立 代表就任

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）国家レジリエンス防災・減災強化イノベーション戦略コーディネーター、東京都震災復興検討委員、神奈川県防災アドバイザー等としてご活躍されている。

災害から子どもを守る研究の第一人者としてNHKや各メディアの多くの番組に出演されている。発災時はいち早く現地に入り継続して支援活動をしている。

今年は阪神淡路大震災から30年の節目の年です。わが国ではこの30年の間に多くの自然災害が日本各地で発生し、昨年の能登半島地震や豪雨災害でも子どもを含む多くの尊い命と平穏な生活が奪われ今も復興最中の厳しい状況にあります。自然災害では知らないことで奪われる、知っていることで守れる命と生活があります。本日は最新の科学的知見を得て防災をアップデートするきっかけになれば幸いです。



### 大谷 敬一郎 氏

高砂市立荒井小学校PTA会長・副会長 高砂市立荒井中学校PTA副会長 高砂市連合PTA会長・副会長 兵庫県PTA協議会常務理事・会計理事・理事を歴任 現在会計理事。

中学校・小学校の学校運営委員会会長 また消防団などの地域ボランティアにも多数在籍し活動中

全国のあちこちで起こる様々な災害に対し、防災や減災を定期的に学び備える事は学校教育での重要な事柄になっています。次々と災害に見舞われた石川県の方の経験などを明日からの防災教育に役に立つよう一緒に考えたいと思います。